

M. N. メディア創造学科・4 年次生

I. 留学レポート

① 協定留学を目指した理由

高校生の頃に、K-POP や韓国ドラマにとっても興味を持ち、韓国が好きになりました。当時は韓国語を全く勉強していなかったので、留学は自分には関係のない話だと思っていました。本格的に韓国留学を目指したきっかけは、メディア創造学科独自の韓国研修プログラムでした。このプログラムは約一週間韓国に滞在し、現地で韓国のエンタメを実際に学ぶことができるものでしたが、選考に通過することができず参加することができませんでした。また、このプログラムは 2 年に一度しか実施されていなかったため、その期間を活用して韓国語の勉強を始めました。学習を続ける中で、韓国語だけでなく韓国の文化や生活にも興味を持つようになり、短期間の研修ではなく、実際に現地で生活しながら学びたいという気持ちが強くなり、協定留学を目指しました。

② 留学を目指してから出願までの語学学習方法

協定大学留学には TOPIK の 3 級が必須条件だったので、TOPIK 関連の問題集を解いたり、単語帳の CD を使ったり、リスニングと例文の音読をしていました。実際には就職活動やメディア創造学科のゼミ活動・進級制作があり、あまり勉強時間は取れていませんでした。

③ 留学決定から出発までの準備期間にしたこと

◆ 語学学習法

TOPIK の勉強、YouTube 等で韓国語の動画を視聴していました。国際課の韓国語チャットルームも留学決定後、毎週予約して利用するようにしていました。

◆ ビザ申請方法

業者などに委託せず、自分で行いました。申請に必要な書類や手続きについては主にインターネットで調べながら準備を進めました。しかし、サイトによって記載されている情報が異なっているので、迷うこともありました。自分が申請するビザの種類を確認しながら準備を進めれば、問題なく申請できると思います。

④ 現地到着後

◆ 空港から滞在先までの移動手段、所要時間

空港から寮までは荷物が多かったため、タクシーで移動しました。私は現地でタクシーを拾いましたが、料金を不当に請求されないか少し不安でした。運転手の方が携帯のナビに寮までの経路を口頭で設定しているのが確認できたので、ぼったくりはなさそうでした。それでも心配な場合は、NAVER マップなどで現在地やルートを確認しながら移動すると安心だと思います。また、個人差もあると思いますが、利用したタクシーの運転手が信号待ちの際に

居眠りをしている様子もあり、安全面に少し不安がありました。そのため、より安心して利用したい場合は、事前にカカオタクシーなどの配車アプリをインストールして利用するのが良いと思います。

◆ 現地でのオリエンテーション期間中にしたこと

入寮当日は、寮の方から寮生活に関する説明を受けました。施設の利用方法に加え、韓国では指定のゴミ袋を使用し、ごみを捨てる必要があるため、その購入方法や分別方法についても少し説明がありました。その後、韓国に到着してから2～3日間は、布団カバーや日用品の購入など、新生活の準備を中心に過ごしました。また、留学前の説明会では健康診断のために入国当日に病院へ行き、検査に問題がなければ入寮できると聞いていたため、飛行機の時間などが遅れないかなどの心配していました。しかし、実際には入国当日に行く必要はなく、私は入国翌日に受診しました。病院では受付で誠信女子大学の留学生であることを伝え、慣れた様子で案内してくださり、特に不安を感じることなく手続きを進めることができました。検査内容はエコー検査のみで、終了後に会計を済ませ、検査結果の用紙を受け取って終了しました。他には、大学のオリエンテーションが行われました。参加してまず驚いたのは、日本人留学生が想像以上に多かったことです。オリエンテーションでは、現地の学生や国際課の方から、食堂や教室の場所、保健室などの学内施設の利用方法や、大学のポータルサイトの使い方について説明を受けました。その後は国籍ごとにグループ分けされ、韓国での生活における注意事項や犯罪被害防止に関する動画を視聴しました。

◆ その他必要な諸手続き方法

病院で受けた健康診断の結果を寮の担当者へ提出すると、寮費の支払いに必要な書類を受け取りました。その後、指定された銀行(ソンシンの駅前にある国民銀行)で寮費を納付しました。私は送金サービスとして Wise を利用していましたが、一度に引き出せる金額に制限があり、寮費を用意する際に現金を2回に分けて引き出す必要がありました。そのため、Wise を利用する予定の方は、寮費の支払い期限に余裕を持って早めに現金化しておくことをおすすめします。

⑤ 語学研修期間

◆ 語学研修先の施設・環境について

事前に語学堂はモンゴル出身の学生が多いと聞いていたため、国籍の割合については大きな驚きはありませんでした。実際にクラスにはモンゴル、ベトナム、ミャンマー出身の学生が多く、日本人は私を含めて2人だけでした。

教室はそれほど大きくなく、私を含めて17人のクラスでした。そのため、先生やクラスメイトとの距離も近く、発言や交流がしやすい環境だったと思います。また、廊下には浄水器が設置されており、大学の施設と併設されていたため、設備面で困ることはありませんでした。語学堂はクラス分けとしてテストがあるという話を聞いていましたが、テストは無く、自分が受けたい級の授業を受けることができました。

◆ 授業内容、課題、試験

5 級のクラスに配属されると聞いた時は、授業内容が難しく、ついていけないのではないかと不安に感じていました。しかし、実際に授業を受けてみると、想像していたほど難しくなく、問題なく授業についていくことができました。授業内容は、発音を身につけるというよりも、TOPIK の上級合格を目標にした対策や勉強が中心でした。そのため、韓国語能力を伸ばすという点では非常に実践的な授業だったと思います。一方で、3 級のクラスでは発音矯正も行われると聞いたため、よりネイティブに近い発音を身につけたい気持ちもあったので、3 級から学ぶ選択肢でも良かったのではないかと感じました。授業は月曜日から金曜日まであり、私は朝から始まるクラスでした。毎朝 9 時開始だったため、早起きには慣れるまで少し大変でしたが、大学と寮が近かったため移動面では助かりました。授業時間は 9 時から 12 時 50 分までで、50 分授業を受けた後に 10 分休憩という形式でした。また、月・水・金曜日と火・木曜日で担当の先生が変わりました。

授業以外にも、毎日の宿題や次回授業で扱う単語の予習があったため、大学の授業と並行して進めることは大変でした。試験は中間試験と期末試験に加えて、スギ（作文）とマラギ（会話）の小テストもありました。中間・期末試験ではイルキ（読解）、トゥッキ（聞き取り）、スギ（作文）、マラギ（会話）の 4 つの分野を受験するため、試験範囲や勉強量はかなり多かったです。イメージとしては、TOPIK の試験に加えてスピーキングテストもあるような形式でした。

⑥ 正規科目履修期間**◆ 大学の施設・環境について**

大学の敷地は非常に広く、最初は移動に慣れるまで大変でした。特に大学までの坂道が急だったため、毎日の通学では少し苦労しました。しかし、キャンパス内にはコンビニや図書館、ジムなどさまざまな施設が整っていました。また、私は利用していませんでしたが、留学生の中にはジムを利用している人もおり、トレーニング機器も充実している印象でした。大学の校舎は、私が通っていた同志社女子大学の京田辺キャンパスよりも何倍も広く、施設の規模の違いに驚きました。語学堂の授業が終わった後すぐに正規授業が始まるため、教室移動の際は時間に余裕がなく大変でした。また、誠信女子大学では日本の大学のようにお昼休みの時間がなかったことにも驚きました。設備面では、トイレにトイレットペーパーを流せる点が日本と同じで安心しました。また、学内には食堂やカフェが複数あり、食事の選択肢が多かったことがありがたかったです。

◆ 履修科目について**・「戦略コミュニケーション概論」**

授業内容：本当は別の科目を履修したいと考えていましたが、人数制限のため希望していた授業を取ることができず、第二希望の授業を履修しました。履修した授業は広告に関する内容で、企業の危機管理や不買運動などについて学びました。評価基準は、中間試験・期末試

験・チーム発表・出席でした。授業内ではグループ活動もありましたが、私のクラスには日本人が私 1 人しかいなかったため、コミュニケーションやグループ活動に対して不安を感じていました。

課題・試験内容：試験については、出題範囲や形式（空欄補充問題、○×問題、記述など）を先生が事前に詳しく説明してくださっていたため、対策自体はしやすかったです。期末試験では中間試験より範囲が少なかったため、記述問題が中心でした。しかし、授業内容は日本語に訳しても難しい専門的な内容が多く、韓国語で記述することにも苦勞しました。そのため、この授業が一番成績面で不安を感じた授業でした。また、韓国人学生にとっては試験範囲が事前に明確に伝えられている状態だったため、平均点も高く、自分の成績がどうなるのか不安に感じました。

・「映像美学」

授業内容：この授業は、ゼミの振替として履修した授業です。授業の前半では、照明や撮影など映像制作に関する内容についての講義を受けました。最初の 5 回程度は講義形式の授業が中心でしたが、中間課題や期末課題の途中経過発表、最終発表の時期になると撮影などの活動が増え、休講になることもあったため、講義を聞く回数はそこまで多くありませんでした。

課題・試験内容：主な評価基準は、中間課題、中間試験の代替課題（レポート）、最終課題、期末試験、出席でした。留学前は試験がないと聞いていましたが、担当の先生が変更になったことで試験が追加されました。また、中間試験代替課題の未提出や、期末試験 20 点未満の場合は無条件で F（単位取得不可）になるため、思っていたよりも評価基準は厳しい授業だと感じました。年度ごとに変わると可能性もあるので参考程度ですが、中間課題は「人生の中で最も印象に残っている映像作品についての感想」を書くレポート課題でした。提出の形式がかなり細かく設定されており、もし満たされていないと減点になるので注意してください。また、韓国のワード形式で提出しなければならず、私は知り合いに頼んで変換してもらったので少し面倒でした。期末試験では「製作者に必要な素養・素質を挙げ、その中でも最も必要な要素は何か」という内容が出題されました。前の週に「勉強は必要ない」と聞いていたため、特別な対策をせずに試験に臨みましたが、先生がどのような基準で評価するのか分からず、不安を感じました。

・「東アジア文化とコンテンツ」

授業内容：この授業は留学生向けに開講されている授業でした。受講生は中国・モンゴル・日本人が多く、その他にもヨーロッパ圏出身の学生が少数いました。また、担当の先生も外国籍の方（確か中国出身）だったため、授業の初めの頃は先生の韓国語を聞き取ることに苦勞しました。シラバスには韓国ドラマを題材に学ぶような内容が書かれており、韓国ドラマが好きな私にとって興味深い授業だと思い履修しました。しかし、実際の授業では韓国ドラ

マを深く分析するというより、ドラマの中で描かれている社会問題や韓国の歴史などを学んだり、ドラマを見ながらリスニング練習を行ったりすることが多く、シラバスで書かれていることとはかなり違う印象を受けました。そのため、韓国文化やドラマについて深く学びたい人には少し期待と違う可能性があると思います。実際に他の外国籍の学生や、他大学から来ていた日本人留学生の中にも「思っていた内容と違った」「あまり面白くない」と感じている人がいました。私自身も、別の授業を選択すればよかったと少し後悔した授業でした。

課題・試験内容：評価基準は、中間試験・期末試験・グループ発表・出席・授業内での発言などでした。グループ活動では、グループ分けを先生が決める形式だったため、自分でメンバーを選ぶことはできませんでした。そのため、どのようなメンバーと一緒にになるかは運次第でした。

⑦ クラブ、課外活動、ボランティア活動

参加していなかった。

⑧ 現地での住まいについて

◆ 語学研修、正規科目履修期間

私が利用した寮は「Home&N」という寮でした。2 人部屋で、部屋内にはトイレとシャワーが付いていました（浴槽はありません）。基本的には自炊形式の寮でしたが、寮の周辺には飲食店が多く、ペダル（デリバリー）を頼むことも多かったです。また、授業終了後にそのまま大学の学食へ行って食事をすることもありました。たまに、パスタを作ったりしましたが、基本的にレンジでできるものや冷凍食品を食べていました。寮から大学までは徒歩 10 分以内で、通学にはとても便利でした。部屋には IH、エアコン、暖房設備があり、生活に必要な設備は基本的に整っていました。家具は 2 段ベッド、机と椅子が 1 人につき 1 つずつ、クローゼットがありました。ハンガーは前に住んでいた学生が残していったものがあり、そのまま使用していました。ベッドのマットレスはかなり硬いです。Home&N には 1 階に休憩室があり、テスト期間にはそこで勉強することもありました。他の寮には浄水器が設置されているところもあり、その点は少し羨ましく感じました。全体的には大学から近く、周辺に飲食店も多かったため、生活する上では便利な環境でした。個人的には綺麗な寮だという印象を持っていましたが、部屋によっては汚い部屋や修理ができていない部屋もあったのでかなり個人差があるのかもしれないです。

⑨ 長期休暇の過ごし方

半年のため長期休暇なし

⑩ 留学期間中の就職活動の取り組み

私は大学 4 年生の春学期に留学したため、就職活動の時期と留学期間が重なっていました。

そのため、韓国に滞在しながら Web で企業説明会に参加したり、面接の日程に合わせて語学堂の先生へ欠席の連絡をしたりしながら就職活動を進めました。また、一度日本へ帰国し、日帰りで面接を受けに行ったこともありました。留学中でも就職活動を行うことは可能ですが、個人的にはあまりおすすめはしません。韓国語で生活する中で言葉の壁を感じている状況で、就職活動でも不採用通知が届くと精神的に落ち込んだ時期もありました。また、就職活動の軸が分からなくなり、悩んだ時期もありました。また、ES の締め切りを完全に忘れていたりしたこともあったので気をつけて下さい。しかし、逆に韓国にいたことで、韓国での生活や友人との交流を通して気分転換ができていた部分もありました。日本にいた場合、就職活動だけに集中してしまい、より追い込まれていた可能性もあると思います。2 年生や 3 年生の時期に留学を考えていて、就職活動への不安から留学を迷っている人もいます。2 年生や 3 年生の時期はどのような業界があるのか、自分がどのような分野に興味を持っているのかを少し調べておく程度で十分だと思います。そのため、就職活動を理由に留学を諦めず、挑戦してほしいです。また、4 年生で留学を考えている人も、就職活動との両立を不安に感じると思います。私自身も就職活動を理由に留学を諦めようと考えたことがありました。しかし、留学に行かなかったとしても就職活動で悩んでいたと思います。また、日本にいても留学に挑戦しておけばよかったなと後悔していたと思います。留学が終わった今では、結果的に留学に行ってよかったと感じています。面接の際に「現在留学中です」と伝え、留学に挑戦していること自体に興味を持っていただけたこともありました。留学経験は就職活動においても自分をアピールできる経験になるため、不安があっても挑戦してみる価値はあると思います。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

留学中で特に楽しかったことは、バディ活動や韓国での生活を通して、自分でお気に入りの場所を見つけることができたことです。最初は知らない場所ばかりでしたが、ソンスやトゥクソムなど、自分で気軽に行ける場所が増えていくにつれて、韓国での生活がより楽しくなり、韓国への興味や好きという気持ちもさらに強くなりました。また、日本ではなかなか食べる機会が少ないユッケを気軽に食べることができたことも印象に残っています。さらに、韓国で話題になっていたドゥチョンクやバタートックなど、流行しているものを実際に現地ですぐに体験できたことも、留学ならではの楽しさだと感じました。オーリーブヤングのセールが留学中 2 回ほどかぶっており、爆買いをして就活のストレスを発散していました。

② 留学中でつらかったこと、最も苦勞したこと

一番苦勞したことは、自分が思っていた以上に韓国語での意思疎通が難しかったことです。授業ではグループ活動が多く、韓国人学生と一緒に課題に取り組む機会も多くありました。韓国の学生は成績を非常に重視している印象があり、自分の韓国語力不足によってグルー

プメンバーに迷惑をかけてしまわないかというプレッシャーを感じるが多かったです。また、留学中は就職活動も並行して行っていました。思うように結果が出なかったり、不採用通知が続いたりした時期は精神的につらく感じることもありました。しかし、留学生活と就職活動を同時に経験したことで、自分自身の成長や将来について考えるきっかけになりました。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

韓国のトイレ事情については事前にある程度知っていたため、大きな驚きはありませんでした。しかし、実際に生活してみて一番驚いたのは、路上喫煙やポイ捨ての多さ、そして道路の汚れでした。日本では比較的きれいに保たれている場所でも、韓国では歩道や道路にごみが落ちていることがあり、生活する中で文化や習慣の違いを実感しました。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

良かった点としては、現地の学生と交流できるバディ制度など、留学生向けのサポート体制が整っていたことです。初めての海外生活でも、現地の学生と関わる機会があったことで安心して生活することができました。また、大学の設備も充実しており、私が通っていた同志社女子大学よりも充実していると感じる部分もありました。生活や授業をする上で、設備面で困ることはほとんどありませんでした。さらに、大学周辺の環境が非常に良かった点も魅力でした。飲食店やカフェなどが多く、生活する上で便利でした。また、私の寮の最寄り駅は 4 号線沿いだったため、ソウル市内のさまざまな場所へ移動しやすく、休日に遊びに行く際にも便利でした。一方で、悪かった点としては、大学までの坂道がかなり急だったことです。毎日の通学では少し大変に感じました。また、大学ではなく寮に関するのですが、帰国直前に消火ベルが 2 回誤作動し、かなり大きな音が鳴ったことがありました。頻繁ではなかったのですが、かなり驚きました。

② 日本から持って行って、特に役に立ったもの

iPad は授業で使用する資料をダウンロードして書き込みながら授業を受けることが多かったため、非常に役に立ちました。タッチペンも持っていると思うといいと思います。また、パソコンも持参しました。授業でプレゼン資料を作成する機会があったため、課題に取り組む際に必要でした。また、レポート課題や就職活動でも使用する機会が多かったので持っていくことをお勧めします。電子レンジでご飯を炊くことができる容器も便利でした。韓国で毎日外食や学食を利用すると食費がかかるため、自炊することで節約することができました。よくお米を食べる人にはおすすめです。その他にも、ラップやウェットティッシュ、使い捨てのプラスチック手袋、洗剤などの日用品は持って行ってよかったと感じました。韓国でも購入することはできますが、到着直後は生活環境を整えることで忙しく、使い慣れた日

本のものがあると安心して生活を始めることができました。

③ 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

留学による韓国語能力の伸びについては、まだ TOPIK を受験していないため、点数などの数値でどの程度向上したのかは分かりません。しかし、留学前は TOPIK の勉強を続ける中で「これ以上韓国語が伸びるのだろうか」と感じることもありました。実際に韓国で生活し、自分自身の韓国語の実力を試す機会が増えたことで、まだまだ伸ばせる部分があると感じました。また、外国籍でありながら韓国語を非常に流暢に話す人と出会い、もっと韓国語を勉強して上達したいという気持ちが強くなりました。語学力以外では、小さな変化ですが、飛行機に乗る際の手続きなど、以前は大きなハードルに感じていたことへの抵抗感が少し減ったように感じます。また、留学生活を通して一人で行動することにも慣れ、自分で考えて行動する力が身についたと思います。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

私自身も不安なことが多い中で留学を決意しました。もちろん、言語や生活面など大変に感じることもたくさんありました。しかし、それ以上に楽しかった経験や、自分自身の成長を感じることができた経験が多くありました。また、日本に住んでいたら出会うことがなかった人たちと出会い、さまざまな価値観に触れることができました。留学を通して、自分の人生の選択肢も広がったと思います。大学生の今だからこそできる貴重な経験だと思います。不安なこともあると思いますが、少しでも興味があるならぜひ挑戦してみてください。

IV. 将来の目標

今後の進路、将来の目標・夢

化粧品業界への就職を考えています。まずは日本の化粧品業界で経験を積み、将来的にはもう一度ワーキングホリデーで渡韓し、韓国での就職にも挑戦したいと考えています。

V. 写真



난향관 (ナンヒョウグァン/大学食堂) にある食堂はビュッフェ形式ではなく、好きなメニューを選んで注文できます。写真はスンデクップです。キムチはセルフサービスで、語学堂や授業終わりによく利用していました。スンデが好きな方におすすめです。



수정관 (スジョングァン/大学食堂) にあるハンバーガー店です。とても美味しく、私にとっては「人生バーガー」でした。特にチーズボールが学生に人気で、語学堂の友人と授業終わりによく食べに行きました。



留学中に好きなアーティスト（アイドル）のポップアップが何度か開催されました。現地だからこそ最新情報をすぐ知ることができ、実際に参加できたことが留学ならではの思い出です。

2026 年度（春スタート・1 セメスター）
誠信女子大学



年 4 回開催されるセールで購入した時の写真です。就活の面接後のご褒美として訪れ、企画セットなどをお得に購入できました。良いストレス発散にもなりました。



東大門で鏡や櫛、キーホルダーをデコレーションしました。2 つで 7,600 ウォンと手頃な価格で楽しめます。現地の人が多く、旅行とは違う雰囲気味わうことができました。